

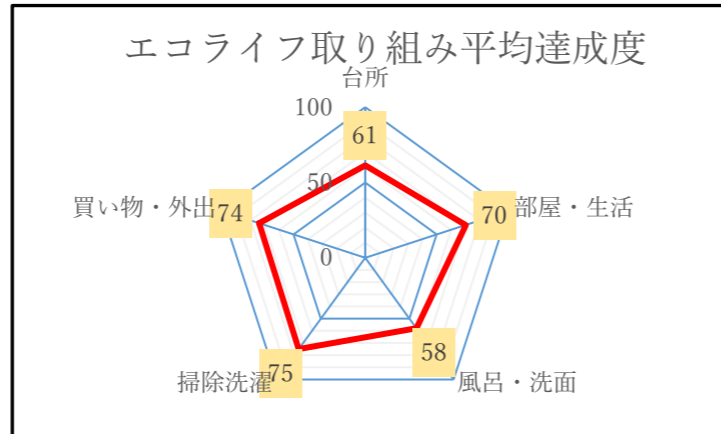
担当者座談会『省エネ診断』の実践から学ぶ

大津市センターでは平成28年度の主な事業として、家庭向けと事業者向けの「省エネ診断」に取り組みました。まず家庭向けでは、2つの学区の自治会や小学校7校、市内3事業所でエコライフデー（7月9日）を、3か所のイベント会場で簡易診断を、更に30世帯の方に「うちエコ診断」を実施しました。また、事業者向けには、「お店の省エネ診断」を実施しました。担当して感じたことを話し合っていました。

<気づきから行動へ～家庭の省エネ>

- K：イベント会場での簡易診断は、簡単なアンケートに答えてもらうものですが「省エネの大切さ」に改めて気づいていただければ成果があったと言えるでしょう。
- Y：簡易診断により「こんなことに、こんなに電気を使っているのか」と知ってもらうだけで意義があると思いました。気づきが実際の省エネ行動に結びついてほしいものです。
- N：エコライフデーは「きょう一日の生活をエコに」という趣旨で、お金をかけずに省エネ効果をあげるには有効な手段だと思います。チェックシートの回収率は決して高いとは言えませんが、それでも約1,000世帯もの参加があり大きな成果があったといえます。
- S：実施してもらった自治会へ結果報告に行きましたが、あまり関心を持たれていない方も少なからずおられる、というのが正直な印象です。実施前にエコライフデーの趣旨をもっと説明しておくことが大事ですね。
- KW：車への関心が薄いように思います。CO2排出の28%が車からですが、移動手段への配慮が省エネの重要なポイントです。簡易診断やエコライフデーによって車への意識がどこまで高められるかです。
- N：公共交通の利便性のないところは車に頼る機会が多いことが、エコライフデーの結果にも表れています。車移動への取り組み改善の検討が不可欠です。
- K：エコカーの普及を進めること、そのためのインフラ整備（電気や水素供給源）も必要です。

- KW：低炭素社会ではなく脱炭素社会を先導して創る取り組みが必要です。CO2の排出をゼロにするというのは、ガソリンを使うなということですから…。
- Y：脱くるま、脱炭素の目標をかかげて進むとなると、これはコンパクトシティ構想とも関連してきます。
- N：高齢化で車を持たない人も増えています。公共交通のあり方は重要なテーマです。
- Y：家庭向け診断から感じたことは、市民の関心がまだまだ低いことです。大津市センターの果たすべき役割は大きいといえます。
- S：「エコライフデー」は入門的にできるだけ多くの市民に参加していただく、そして専門的には「うちエコ診断」などでより詳しく省エネを実践していただく。これら省エネ普及の私たちの活動は、もう少し連動させ、体系的に進める必要がありますね。



家庭の省エネ簡易診断の結果
イベント会場でのアンケート回答者100人の平均
台所と風呂での改善の余地が大きい

<「見える化」で知る改善点～事業者の省エネ>

- Y：企業の場合、積極的に省エネに取り組んでおられるように思いますが、更に「見える化」診断をすれば電力使用の実態がつかめます。
- KW：「見える化」診断によってピーク時の使用電力を下げ、契約電気料金の引き下げを実現した事例があります。これは電力会社の発電量を下げることによるCO2削減につながります。またメーカーの場合、品質管理を徹底して不良品を減らすことによって余分な工程エネルギーコストを下げられます。不良品をつくることは材料や工程エネルギーの無駄遣いにつながりますから…。
- Y：メーカーに比べて事務所の省エネはまだです。大津市でも業務部門のCO2排出が増えています。照明・空調いすれにも改善の余地は大きいようです。照明のLED化は早急に進めたいですね。大津でも「市民節電所」を広めたいと思います。
- KW：大手の電力会社が電気をつくって配るとい社会は変わるでしょう。個別に発電し自家使用して余ったエネルギーを地域に配るといった地域エネルギー自給へと向かう、そういう意識を育てていくことが大切だと思います。

<生活や事業活動に必要なエネルギー量を知ろう>

- S：自分では環境への関心が高く、省エネ意識も高いと自負していたのですが、「うちエコ診断」を受けて、それは精神論であったことに気づきました(笑)。「うちエコ診断」を受ければ、技術的に考えることが身に付きます。
- KW：日常生活や事業活動に本当に必要なエネルギーコストはいくらなのかを自分で知ることから省エネが浸透していくと思います。
- N：エコライフデーが終わった後もチェックシートを目につくところに貼っておいてもらうといいですね。

- KW：省エネというと照明や家電の使い方になりがちですが「水」に気づく人は少ないようです。生活用水には大きなエネルギーがかかっています。
- Y：床暖房とかエコキュート*1とかコジェネ*2とか、エネルギーの上手な使い方が提案されています。家族構成や事業の実態に合った導入の仕方を工夫することが大事です。
- KW：最近は省エネというと断熱が話題になりますが、密封性を高めて閉じた場所をつくるのか、自然を取り入れた快適生活を求めるか、価値判断が問われるところです。
- K：昔は、手軽な暖房は、火鉢だったわけです。私は、自室では、炬燵に湯たんぽの生活です。夏は木陰、冬は日溜まり、自然との共生で省エネ生活を！
脱炭素とは自然をどう取り入れていくか、ということです。
- Y：照明はできるだけ外光を利用しています。要る時は、白熱電球などは使わないで効率の良いLEDランプにしています。
- K：滋賀県の住宅用太陽光発電の普及率(10.4%・H27年)は全国順位5位ですが、トップにもっていきたいですね、絶対数でいうとその差約8,000戸くらいですから。
- KW：事業者は車、家庭はお湯に気を配ってほしいと思います。家庭ではあまり気にせずにお湯を捨てている。シャワーはなるべく短時間で、シャワー器具の操作で水の使用量を減らす工夫をしてほしいですね。
- S：事業所では省エネに頑張った従業員に利益を還元するしくみを考えてほしい。
- N：家庭では、もう一度、エコライフデーのシートに関心をもって見てほしい。そして自分でチェックしてみて、どれほど無駄遣いしているのか気づいてほしいと思います。



座談会の出席者：西山克己(N)、河原林晋(KW)、澤田務(S)、神原幸男(K)、山和孝(Y)のみなさん

担当のみなさんに熱心に話し合っていました。市民・事業者の一人一人の取り組みから大津市の省エネを促進し温暖化防止に役立てたいと思います。

- *1…ヒートポンプ技術を利用し空気の熱で湯を沸かすことができる電気給湯機。冷媒としてCO2を使用している。
*2…原動機等により電力と熱を供給するシステム(熱電併給)で、電力と廃熱の両方を有効利用することによりCO2排出量の削減、省エネによる経済性向上を図る。

大津市センターの講座案内(4月～7月上旬)

☆ おおつ市民環境塾2017

- 講座1 体験学習「自然観察と野草料理体験」 4月22日(土)10:00から13:00
場所：日吉中学校調理室および周辺の野原 定員：20名
- 講座2 まち歩き「坂本の歴史地区を楽しく歩こう」 5月20日(土)13:00から15:30
場所：京阪坂本駅前集合 定員：20名
- 講座3 講演会「自然を生かした暮らし」 6月10日(土)15:00から16:30
明日都浜大津ふれあいプラザ大会議室 定員：40名
- 講座4 見学会「共存の森とエコハウス見学」 7月4日(火)9:00から15:00
場所：JR南草津駅東口バス乗り場集合 定員：20名

☆ 生物多様性保全事業

- 体験学習「琵琶湖の漁業体験～魚釣り体験をしよう～」 5月28日(日)9:45～12:00
場所：明日都浜大津大津市市民活動センター会議室および大津港 定員：15名
- 体験学習「田んぼの生きもの観察会」 6月3日(土)9:30～11:30
場所：ウォーターステーション琵琶および近くの田んぼ 定員20人
- 体験学習「どろんこ一ぷで遊ぼう」 場所：北大路どろんこ一ぷ(北大路三丁目地先)
 - 「オタマジャクシと遊ぼう」 6月11日(日)10:00～12:00 定員：親子20組
 - 「カエルと遊ぼう」 7月9日(日)10:00～12:00 定員：親子20組

☆ 地球温暖化防止事業

- 体験学習「菜種油を作ろう」 5月27日(土)10時から11時半(雨天時は6月4日に延期)
場所：雄琴菜の花畑(JRおごと温泉駅から徒歩5分) 定員：20名

*お問い合わせ 大津市地球温暖化防止活動推進センター (077-526-7545)

参加費
無料

